



雅福社会 みやびの杜保育園 法人理念

- 一、生命の尊厳と人間愛を基本に子どもに奉仕
- 一、子どもの最善の利益と質の高い教育保育の提供
- 一、地域との連携を図り社会貢献
- 一、感謝と支え合いを礎に職員の幸福を目指す法人運営

ホームページ

<http://miyabinomori.jp>

TEL: 098-941-5580

FAX: 098-917-5198

令和4年7月29日 社会福祉法人雅福社会 みやびの杜保育園

夏真っ盛りの最近では太陽の日差しが強く、子ども達の園外活動時間も体調を見ながら調整しています。幼児クラスの毎朝のマラソンでは「楽しみー♪」と言う子もいれば「暑いー」と溶けそうになっている子も(*_*). しかしいざ公園についてみるとキラキラした表情♪走り出すと、元気いっぱいに鳴いているセミの声を聞き「セミが応援してるよー！」と子ども同士伝え合い、スピードアップする姿も見られています(*^-^*)室内ではエアコンをつけていますが、着替えたりシャワーをしたりして、体調管理をしっかりとしていきたいと思います。ご家庭でも何か変わった様子が見られる際には登降時にお知らせくださいね。



職員研修 1日 「急かさない保育実践を展開するために」…職員全員

19日 事故予防セミナー「ポストコロナ時代の保育の安全」…中原

24日 実践タイムマネージメントセミナー…園長



原爆の日…8月6日(広島)・9日(長崎)

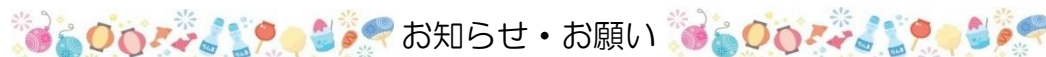
- ・1945年の太平洋戦争の時に広島と長崎に原爆が落とされました。原爆の日には原爆で亡くなった人々への追悼と恐ろしい原子爆弾が二度と落とされる事が無いよう世界の平和を祈る式典が開かれています。

終戦記念日…8月15日

- ・戦争をした結果多くの方が亡くなり、空襲で街が焼かれたりしました。その戦争が終わった日を記念した日が終戦記念日です。世界の人と仲良くするにはどうしたらよいか考える機会ですね。

山の日…8月11日

山に親しむ機会を得る中で恩恵に感謝しようという趣旨が込められています。



お知らせ・お願い

- ・朝のお忙しい時間の中、健康チェックカードの記入をありがとうございます。今月も水遊び等ありますのでご協力をお願い致します。また、朝ごはんも必ず食べてから登園するようにしてください。寝起きで食欲のない時にはバナナなどの果物や、オレンジジュースを飲むだけでも良いです。何も食べずに午前中活動することは体調不良に繋がりますので、よろしくお願い致します。
- ・より良い保育のために園に対するご意見・ご要望がありましたらお寄せください。なお、7月はご意見・ご要望はありませんでした。
- ・第3土曜日の午後の時間を園内消毒や職員研修などの時間にあてさせて頂きありがとうございます。お仕事などの際には通常通りお預かり致しますのでその際はお声がけください。7月は園内外の掃除・消毒・職員会議・園内研修に充てさせて頂きました。ありがとうございました！
- ・お食事の食材発注の関係で土曜日登園についてその週の月曜日に確認させて頂きます。
- ・平日のお休みの場合は、8時半までに連絡をお願いします。



- ・20日の保育参加は、延期となった夏まつりを行なう予定です。みやびの杜保育園にて2部制にして実施予定ですので楽しみにしてくださいね♪なお詳しい日程等は別紙にてお知らせいたします。



研修報告

オンライン「保育が変える子どもの未来（講師：大豆生田啓友）」 石原大貴

最初に印象的だったのは、講師による「小さい頃の記憶は思い返せなくても子どもの中に残っている」という言葉。保育者が毎日行っている保育はその子の今後に関わりの影響を与えていく。講演では、幼児期の絵本の読み聞かせから様々な活動に発展していったことを例に挙げていたが、それらに共通するのは「幸せの記憶」であるということ。保育園って楽しいね、先生といると楽しいねと思えるよう自分自身の日頃の言動、保育内容について改めて振り返り工夫していくためのきっかけとなった。

「幼児教育・保育の質の効果」

非認知能力が将来の所得に影響する。つまり、非認知能力を幼少期に伸ばすことは人的資本として重要となる。特に注目したいのは、保育利用が言語能力向上、多動性や攻撃性の低下につながるということ。保育園に求められる「質の高い教育・保育」と保育者の資質向上への意識を持ち、保育者個人の学びからどのように園全体に広げていくか工夫していく。

「気になる子」について、その子の良さをいかに見つけ出すか

子どもたちの興味関心が育つように、それにつながる絵本や図鑑、写真を準備したり、それを作れるような素材を準備することが大切。また、誰かの「面白い」が魅力的に見えるから、ほかの子もそれを真似したいという「育ち合い」が起こる。その「育ち合い」が家庭との決定的違いとなる。子どもの興味関心を把握し、それに合った環境を準備することが出来たら、子どもは自然と人間関係を築き認められることで自信を持ちよりよく育っていくのだと思う。また、子どものワクワクを保育者がワクワクしながら行うと保育は楽しくなり、子どもは落ち着いた生活になっていく。「共感」の心をより大切にしていきたいと思う。気を付ける点は、主体性は「ただの積極性」ではないということ。「(子どもが)自分が自分であること」が大切で、場合によっては黙っているだけのように見えることもある。「活発に」「活動的に」など、保育者の基準で子どもの姿を見ることがないよう、保育者の「こうなったほうが望ましい」と願う気持ちもありながら、「子どもにとって何が最も大切なのか」

という視点をこれまでより心がけていく。

絵本を通して

家庭にある好きな絵本は、保育園でも子どもは好きである。各家庭から、子どもが好きな絵本を聞き園に準備しておいた。また、「〇〇ちゃんならこの絵本が気に入るかな」と子どもの姿を通して絵本という環境を用意することも大切。ある子は、食べ物の絵本を保育者に読み聞かせてもらい「あーん」と食べさせてもらう真似をしてもらい、ある時その子は自分が保育者にもらったように友達に「あーん」と食べさせる真似をしていた。このように、絵本は家庭との連携、子どもと保育者、子どもと子どもをつなげることができる。保護者支援の方法として、取り入れやすく身近な物事からアプローチしていく手段の1つとして大切だと思った。

幸せな子どもを育てる4つの因子

「やってみよう」（自己実現、自分が社会の役に立っている感）

「ありがとう」（愛されている実感、人に感謝し、親切にしたいという思い）

「なんとかなる」（楽観的、気持ちの切り替えができる）

「あなたらしく」（他者と自分を比べない、自分自身のことがわかり、自分を持っている）

保育者自身が4因子を日頃の行動基準として、子どもに「モデル」として見せることで子どもが自然とその姿を身に着けられるようにしていこうと思う。

また、講話の中で自分が最も気を付けていきたい点として、「非認知能力」の捉え方がある。講師によれば、「非認知能力は『能力』と考えるほうがいい。夢中になって遊んでいたらなんかそうなっちゃったくらいで良い」とのこと。「この年齢だから」「進級に向けて」と自分自身焦って子どもに接してしまうこともあるため、個人差の大切さと日頃のねらいをどう設定し、どうしたら達成できるか、次はどう展開するか、より意識していきたい。

